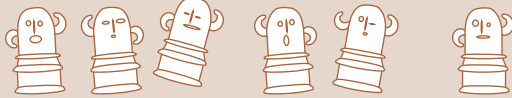




連載のタイトルは、水戸郷土かるたの
ダイダラボウの札をイメージしているヨ。



水戸の時空を ひとまたぎ



第1回

埋蔵文化財とは？

皆さんは、埋蔵文化財とはどのようなものか知っていますか。

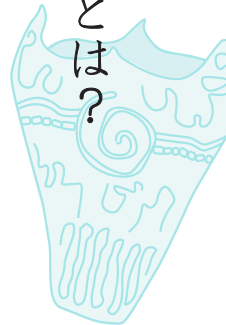
この連載では、市内で出土した埋蔵文化財について、埋蔵文化財センターの調査員が、エピソードを交えながら語ります。

問合せ／埋蔵文化財センター

(☎269・5090)



①古墳の発掘現場と出土した馬形はにわ(荷鞍坂遺跡・酒門町)
②竪穴住居跡の発掘風景(町付遺跡・酒門町)



埋蔵文化財とは、遺跡から発見される住まいの跡や堀跡、そこから出土する土器などの遺物のことです。埋蔵文化財は、人間が住んでいた場所であればどこにでも遺されています。そのため、たとえ文献や記録が残っていない時代や地域でも、埋蔵文化財の出土によって、社会の様子や歴史を解明・検証することができます。まさに、紛れもない事実を語る、貴重な手がかりと言えるのです。

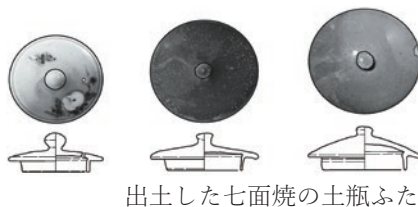
具体例を挙げてみましょう。

江戸時代の古地図によると、現在の備前町一带には、武家屋敷があったとされています。

そこで、平成22年に、備前町にある金神町遺跡を発掘したところ、武士しか所有できなかった七面焼(徳川齊昭公が取組んだ焼き物)などが出土し、さらに武家屋敷の建物跡も見られました。このことから、古地図の記載が正しいと証明されたのです。

市内には、523か所と、大変多くの埋蔵文化財包蔵地(埋蔵文化財が分布する範囲)が存在します。埋蔵文化財センターでは、埋蔵文化財を保護・保存するため、年間200件を超える試掘調査や発掘調査を行っています。埋蔵文化財をおして、過去と現在を結ぶことで、水戸の時空を「ひとまたぎ」してみませんか。次回からもお楽しみください。

埋蔵文化財センター所長 川口武彦



出土した七面焼の土瓶ふた

ダイダラボウのひとりごと ～土の違いを見極める～

発掘調査では、土の違いを見極める能力が必要なんだ。「ただの土でしょ」って思うかもしれないけど、土からわかることはたくさんあるんだよ。

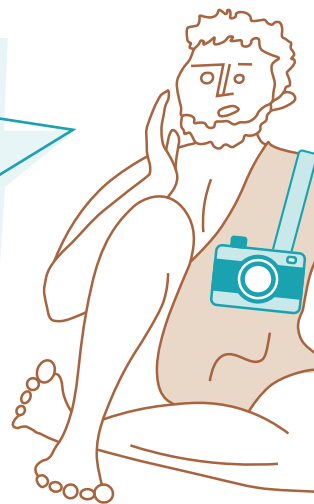
実は、土の色の違いや堅さなどから、遺跡を遺した人々が掘削した建物や井戸などの跡や埋まり方を特定できるんだ。

例えば、旧石器時代に堆積した赤土の面まで掘り下げると、本来なら、赤土だけが一面に広がっているはずなのに、所々に黒い土が出てくるときがある。そ



※しま模様に見えるのは、現代のゴボウ耕作の跡。

こから、縄文時代以降の人が赤土の深くまでを掘って、建物や井戸などを構築した跡だということが分かるんだよ。土って、本当に雄弁だよなあ。



今月は、カメラ好きなダイダラボウKの、土についてのひとりごとだよ。

令和3年4月1日号
第1499号

【発行】水戸市 ☎029・224・1111(代表)
〒310-8610 水戸市中央1-5-1
ホームページ / <https://www.city.mito.jg.jp>

【編集】みとの魅力発信課 ☎029・232・9107
☎029・224・5188 kounhou@city.mito.jg.jp